

池田東籬亭校正  
葛飾戴斗畫圖

# 繪本通俗三國志

七編  
全十冊

京楓書林

額田篁額堂

岡田羣玉堂

梓

序明治十年交換



竊考三國之戰孫堅討董卓頗  
似義兵其實有并吞天下之  
實奸謀非忠臣之志也獨玄德  
棄落大度圖復於漢室忠孝之  
意曹操倡義兵而誅董卓亦其  
人於是卒成鼎足之勢至後主

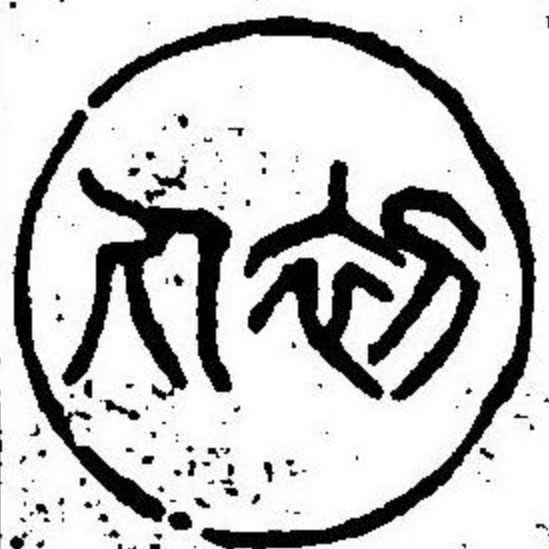


而亡。吳亦至皓亡。魏亦至于真  
之代。為晉武帝終見廢焉。吳魏  
頗非無英雄豪傑之士。蜀特為  
如孔明關張等者。左右之矣。及  
乎後主之時。有萑維者。雖恒補  
翼漢室。然其先亡何年。嗚呼。天  
道是之邪。非之邪。儻臺蒙之士。

觀此書。莫羨其奸。練之輩。而羨  
其忠。孝之士。以代竹馬。擊鼓之  
娛。常讀其國文。觀其畫圖。終至  
發忠孝之志。欽。天保十二年丑  
之歲。歲有閏孟春之月。

提三位維長卿。御嫡男。古齡  
從五位上。哲長君。

訓堂戲撰



欠

MISSING

○吳諸葛瑾字子瑜

○蜀費禕字文偉



蜀費禕字文偉

○五



蜀張飛字均

繪本通俗三國志七編總目錄

卷之一

孔明遺計斬主簿

孔明三出祁山

孔明計破仲達

卷之二

仲達與兵寇漢中

孔明四出祁山

孔明祁山布八陣

卷之三

孔明五出祁山

孔明造木牛流馬  
孔明出祁山

卷之四

孔明造木牛流馬  
孔明蒟蒻谷燒仲達  
孔明秋夜祭北斗

卷之五

孔明秋風五丈原  
死孔明走生仲達  
孔明遺計斬魏延

卷之六

魏折長安承露盤  
仲達與兵定遼東  
仲達謀殺曹爽

卷之七

仲達父子執政  
姜維大戰牛頭山  
吳魏交兵戰徐塘

卷之八

孫峻計殺諸葛恪  
姜維計困司馬昭  
司馬師廢魏主曹芳

卷之九

文鴛一騎破魏兵  
姜維洮西破魏兵  
鄧艾段谷破姜維

卷之十

司馬昭破諸葛懿  
于淮南上死節  
姜維長城戰鄧艾  
孫繼龐奕主孫虎

總目錄終

繪本通俗三國志七篇卷之一

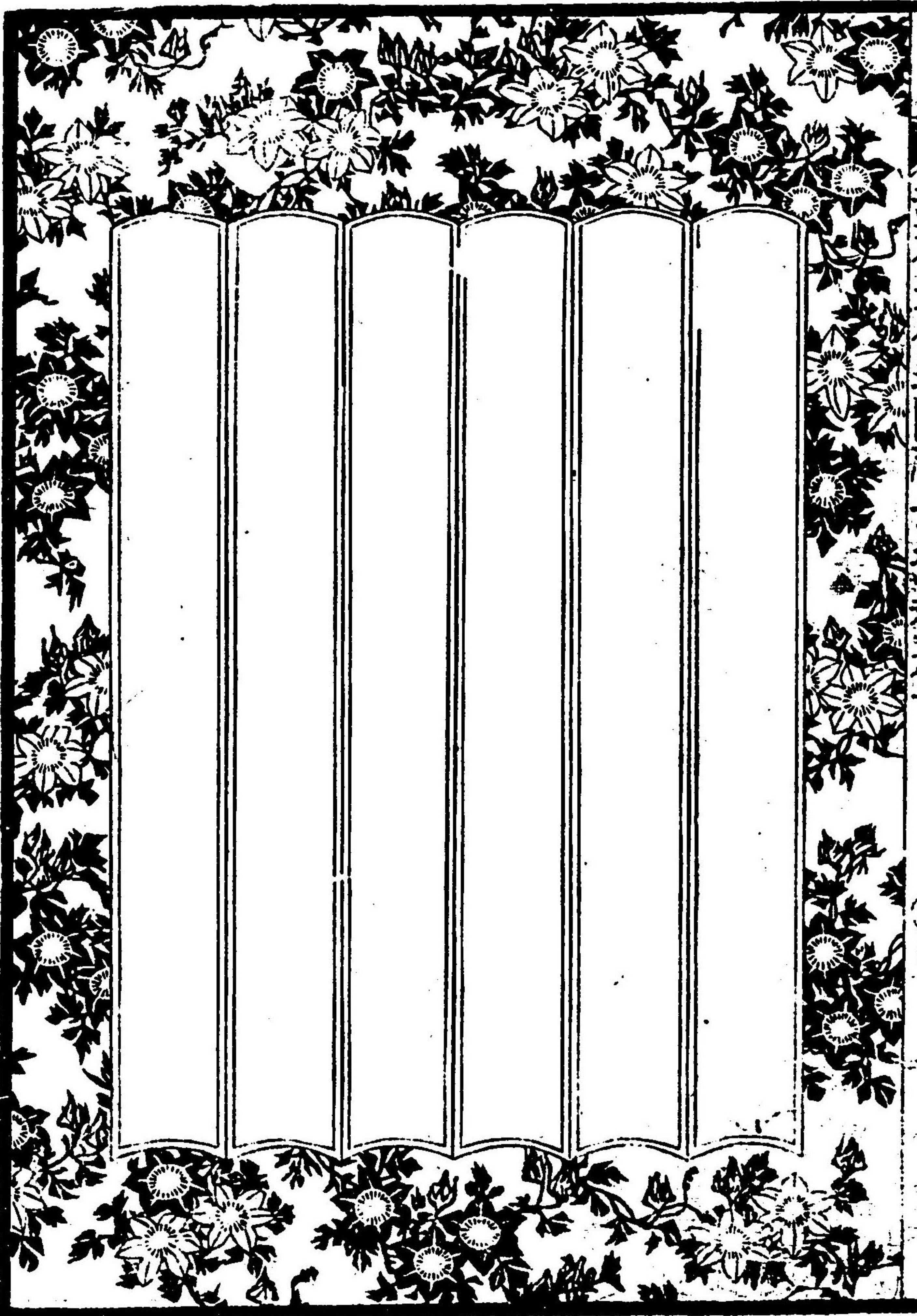
目錄

孔明遺計斬王雙

孔明三出祁山

孔明計破仲達

繪本通俗三國志七篇卷之一



繪本通俗三國志七編卷之壹

孔明遺計斬主雙

去程まゐり孔明孔明又また祁山きしんに出張いっしやうせし曹真そうしん大将たいしやうを討うれ兵へいを損こたるは早はや馬急うまきやくとつげて援えんの勢せきを清ちやうけし魏主みけしゆ曹そう叡えいいとぎ司馬懿しほまゐをまりし計けいとて問とふ司馬懿しほまゐが曰いく臣しんとて孔明こうめいをまりし計けいの味方あつかひの勢せき乃すなは威いとあげ武ぶを耀あはさしとて用もちひを蜀しやくの勢せきとて自然しぜんとてままりし曹そう叡えいよりささんで問とて曰いく汝なんぢが計けいいいらん司馬懿しほまゐが曰いく臣しんとて陛下へいしやに奏そうして孔明こうめいをまりし陳ちん倉そう道どうより生いんで則すなはち城しろを搆かへ郝昭こうしやうを守まもらせたままりし曹そう叡えいの計けいは孔明こうめいの道どうより生いんで通とるととて得えた蜀しやくの兵へい糧りやうを運ゆん送そうするは此道このみちより通とるととて甚こと易やすくと使こふべしと人ひとども今いま郝

繪本通俗三國志七編卷之壹



昭王雙が守まびりけむ孔明の人の道の道より運上とて  
た。他の小路よりえさるる。志うとたの道路後難とてい  
でる。くく大軍と兼さるる。臣は蜀の軍勢つひやまを  
兵糧を量る。二月の用意あらん。兵糧尽るとたへ  
うちうらび引く。國は回らん。蜀の勢の利さる。わへま  
で決さる。又あつ。さのゆ味方よろしく險阻とまめ  
て出あへ。軍と休く日を送らる。蜀の陣中兵糧はあつて  
まのぞき去る。陛下をせ。勅使とせ。曹真もあつて。唯  
す。諸方の攻口をたく守り出てた。かみてあつて。あ  
を。一月とす。蜀の勢はのびく。退ん。そのとた虚の  
て。逃る。孔明もあつ。橋とあらん。曹叡依然とて曰

く汝とて先見の明あり。あんとて。計とあさる。  
司馬懿が曰く。臣身とあつ。命と重んず。あつ。兵を  
や。あひそる。吳の國の敵と拒ん。為さる。吳主孫權及  
び。王と祿さる。ゆ。近き内。あつ。帝位。あつ。  
陛下の征伐。あつ。と。怖と。あつ。兵と起。攻  
上る。臣のゆ。遠く。出。少。御心。苦。あつ。  
と。早馬。きた。曹真。破。あつ。守と  
あつ。と。告げ。司馬懿。又曰く。陛下。使と  
せ。丁。曹真。あつ。蜀の勢。追。あつ。  
す。虚実。伺。重地。入。孔明。計。あつ。  
あつ。の。備。あつ。曹叡。あつ。大常御

韓暨を使として節を持て、曹真をいさし、出で戦ふことな  
らむ。司馬懿城外に出で、韓暨を送りて曰く、「蜀の勢の功  
をのめて曹真を護る。かちうらむ。其が計なり」といふ。とある。是れ  
蜀の勢の功のぞくと、是れ追縛る。又仔細あり。必を性の躁  
まき人の追へむ。うらむ。軽くくさむ。却て孔明が計にあ  
たらん。唯天子の勅命ありとていふ。とある。戒めたる。今と  
いひけし。韓暨別とて打さけり。そのとて曹真は蜀の勢の  
せまきたらん。ゆを怕れ。魏將と計を議する。亦も太常卿韓  
暨節を持て。勅使とて告げし。いふ。出む。入礼し。りて  
詔詞をうけし。退ひて郭淮、孫禮とてその事を議す。郭淮  
わらひて曰く、「されども。ちうらむ。仲達が見し。曹真が曰く、その見し

く。あつひゆる。郭淮が曰く、さし深く。孔明が兵を用ひる法を  
まじり。久まひ。蜀を破らんもの。仲達よ。ぬち。曹  
真が曰く、「蜀の勢の功のぞくと。如何せん。郭淮が曰く、  
その使をせせ。王雙を計をさし。け。小路の門をうく。とぞ  
たく守らし。蜀の勢の兵糧。尽す。一月の内。又さし。ぞく。へ  
そのとて。虚みの。追人。孫禮が曰く、其祁山の路を  
出で。陝西より。味方の兵糧をたさ。とて。車の上。乾  
ける柴を。硫黄。硝石。とて。外。青。布。張。女。糧  
を。の。せ。たる。車。の。と。く。み。ん。の。蜀。の。勢。の。兵。糧。の。車。の。上。に。干  
ら。め。ら。む。来。り。て。車。を。奪。ひ。ん。そのとて。四方より。火を  
けて。伏兵を生し。と。つ。め。尽。く。滅。ち。ぬ。曹真よ。その

び。夫の計まらぬと妙ありと。孫礼は兵を分與て祁山の西へ行し。又陳倉道一人を遣し。王雙を計とを授けて。諸所の道條とまざりし。郭淮は箕谷街亭を守らせ。張遼が子偏將軍張虎を先鋒とし。樂進が子牙門將樂綝と副先鋒とし。本陣を守らせ。大將の下知を聞て。ち打て出よと下知をある。孔明は祁山の陣あり。毎日戦ひを催せども。魏の勢固く守りて。さらし出ざり。けむ。す。あ。ら。し。姜維ホをよび。寄。今。魏の勢。峻。阻。と。守。り。て。出。さ。ら。し。ま。ら。し。兵。糧。の。足。ら。し。と。料。こ。ま。ら。し。殊。さ。ら。陳倉の道條。往。來。通。せ。ざ。し。と。そ。の。外。の。小。路。す。り。少。く。し。運。び。出。さ。し。と。い。ふ。と。も。を。あ。ら。し。だ。め。の。と。艱。難。あり。味。方。貯。た。る。兵。糧。一。月。の。用。足。む。如。

何さふまきと義とある。あふ忽ち告て曰く。魏の勢。祁山の車を。のり。し。備。西。より。祁山の西へ兵糧を運び。大將へ承。郡。容。城の人。孫礼。字。徳。達。と。し。の。あり。孔明。問。て。曰。く。孫。礼。の。い。う。ま。ら。し。人。ぞ。降。参。の。もの。あり。と。答。て。曰。く。夫。の。人。む。し。魏。主。と。ま。た。が。よ。し。出。て。大。石。山。に。獵。を。お。さ。し。忽。ち。大。虎。を。獵。し。下。へ。虎。怒。り。て。魏。主。の。前。に。飛。か。る。と。孫。礼。馬。より。と。い。ひ。封。ぜ。ら。し。る。孔。明。笑。て。曰。く。ま。れ。魏。の。大。將。が。陣。に。兵。糧。の。と。お。し。か。ら。し。ん。と。を。量。り。車。の。上。に。乾。け。る。柴。お。し。ん。と。を。積。で。兵。糧。の。と。く。み。え。せ。ま。ら。し。奪。つ。て。煮。り。あ。べ。火。を。付。て。お。ま。り。討。と。せん。と。の。計。あり。と。平。生。の。心。を。ら。火。攻。を。用。む。と。

いづれ我を奪はむと欲し得んが勢車と奪はんとて打出す  
魏の勢虚すの月と本陣を奪はんとす。敵の計を就て却て  
計を用ひんとて馬岱を遣はして曰く汝は三千余騎を引て魏  
の勢兵糧の車をのち置たるを又行く。軽くしてその内  
へ入る。たゞ風上より火をうけよ。火のゆゆかどとて魏の  
勢をあらせ。我本陣を奪はんとす。我は馬忠張疑を各五  
千余騎を付て本陣の外に伏置内外より夾むとて討  
んとしひひけし。お計を領して出なけり。次は関真張苞を  
よんで曰く魏の勢のうけあらざる陣屋に四方の道は連をれ  
り。今夜西の山に火の起るとして魏の勢をあらせ。來りては本  
陣を攻む。汝二人はあらかども敵の陣に伏す。くまが尺

出ると伺ひ虚すの月と敵の陣屋を奪はんとす。又吳班吳懿  
よんで曰く汝二人はあらかども一軍を引て本陣の外に伏せ魏の  
勢をあらせ。其の路を塞げとて手分たてて入りけし。バ  
孔明もつら。祁山の頂に登り。西を望んで坐し居り。さる  
ちどと魏の細作ひつら。蜀の陣を窺ふ兵糧を奪はんとて  
尺く祁山の陣を打出る。休む人へけし。いそぎとの由と孫  
礼も報を孫礼も又曹真も告げし。曹真もさるとときいそぎ  
張虎樂綝もよんで曰く。今夜西の山に火入り。生る蜀の勢を  
く出さ。祁山の陣に空虚あるを。汝二人もさるとかよせ。陣  
屋を奪はんとす。下知しけし。二人計を受て。兵を調へ  
上り人を登せ。火のりめを。伺はせける。そのと孫礼の

蜀の車と山のりたから集めたる谷の内、兵を埋伏し、蜀の勢より車と奪かんとして来りあむ。一度は打て出く。火を掛よとて、鳴と志がむと待居たり。その夜の三更の比、蜀の大將馬岱、三千余騎を率ゝて、人への技と含え、馬の口を動し、直ち西の山をせまりける。又、投子の車、重疊として、山のどく車の上をかり、旗を夾さんなり。折節、西南の風ふきければ、蜀の兵走りちり、南の方より火をうけたりける。又、乾ける柴も火も入付く。光天を焦がてくちあり。孫礼もとて、てとて、合図の火を付たるぞ。一人もあぬさむと討取とて。一度は出と出けし。忽然として後あり。鼓角、天をこぐ。二平の勢、殺到し。真先も進む。蜀の大將馬忠、張疑、ちり。孫礼、駭

ろま、取て回しと。拒ぐんととて、又、喊とどつとあげて、蜀の大將馬岱、山火の光の中より、討てかり。三方より攻けし。孫礼が支度相違しと。討るゝとの數を志らば。たましく、命を助るゝものも、刺て被り、焼たむとて、さうく、又、逃回るゝとて、さかりけるありさる。張虎、樂緒、孫礼が敗きたる。とて、まらば、西の山、火のかりたる。とて、合図の刻限もあつぬとて。兵と引具し。蜀の本陣も、ちよせ勢ひの、打入ける。又、敵一人、見へざりし。とて、切の計もあたりたり。早く出よとて、さる。蜀の大將吳班、吳懿、二手の勢、討て出く。路とて、入る。とて、又、黄立けし。魏の勢の、さりざり。とて、討て我またとて、逃まら。本陣へ入らん。とて、矢倉の上、矢間の陰より、雨の降とて、矢

と射止しと。蜀の大将関雲張苞とて陣屋を奪取ぬまき連  
て斬り上げと。張虎樂綝又ちびとて討つ。と。曹真が陣を  
落めんとした。と。た。一手の敗軍。と。お焼た。と。せ。回。り。け。ま。ら。ば  
ま。と。と。と。る。と。孫。礼。が。勢。を。共。に。孔。明。が。計。を。中。り。兵。を。お。七。び  
ぬ。と。告。げ。し。と。曹。真。が。ど。ろ。ま。怕。と。の。後。より。へ。堅。く。要。害。を。引  
あ。の。の。と。一。人。も。出。る。と。の。あ。り。け。り。蜀。の。諸。大。將。へ。尺。く。分。取。高  
各。せ。む。と。ら。い。や。の。ち。く。十。分。の。勇。將。の。と。祁。山。の。陣。を。回。け。れ。ば  
孔。明。い。と。ぎ。人。を。陳。倉。道。遣。し。と。ひ。と。う。と。魏。延。の。計。を。さ。げ。は  
謀。所。の。陣。を。収。め。回。る。楊。儀。の。や。志。人。で。問。て。曰。く。今。味。方。戦。ひ。の  
ゆ。て。魏。の。勢。を。お。膽。を。ひ。や。し。魂。を。失。ふ。志。る。と。尺。く。回。り。の。ゆ。へ  
あ。み。の。人。ぞ。孔。明。が。曰。く。我。軍。と。止。し。と。魏。を。攻。む。の。我。病。と。敵。の。ま。り

ら。ぎ。の。人。ま。り。我。病。の。と。あ。り。兵。糧。も。味。方。の。利。も。あ。る。ゆ。へ。急  
に。戦。ひ。を。決。ま。さ。る。と。あ。り。今。敵。も。た。く。守。り。を。止。合。さ。道。條。を。さ。が  
ゆ。て。運。送。絶。た。り。我。病。又。発。す。是。故。に。退。く。ん。と。あ。り。今。魏  
の。勢。を。破。る。洛。陽。も。あ。ら。む。援。の。勢。あ。ら。ん。と。輕。騎。と。り。の  
て。我。回。る。路。と。あ。ら。む。と。何。れ。の。如。何。と。回。る。と。と。得。ん。と。今。今  
魏。の。勢。を。止。ま。さ。る。ゆ。へ。今。今。と。我。患。る。と。の。陳。倉。道  
を。守。る。魏。延。が。一。軍。と。王。雙。と。相。對。と。さ。ら。し。と。今。今。と。志。り  
ぞ。き。難。く。と。是。ゆ。ゆ。魏。延。の。計。を。さ。げ。け。し。と。王。雙。を。斬。死。し。と。あ  
ら。む。魏。の。勢。あ。ら。む。追。来。ら。し。と。今。夜。後。陣。より。志。ど。ひ。く。と。今。今。と  
ぞ。け。し。と。夜。を。入。け。し。と。金。鼓。を。打。す。の。を。か。り。と。今。今。と。の。ま。り。と  
と。常。の。と。く。分。明。の。時。刻。を。打。せ。と。人。の。体。を。さ。ら。し。と。祁。山。の

陣と引拂く。一夜の中、及ぶと、さきける。魏の陣は、曹真が  
びくびく人馬と討れ、心の中、憂ひ苦しむ。固く守りて、  
ざる不ふ。都より、左將軍張郃一軍を引く。下着せし曹真よ  
び、急ぐ對面する。張郃曰く、某勅命をうけ、この軍の  
様で伺へん。為さきたりの曹真が曰く、御辺きたると、司馬  
仲達よの逢ざりし。張郃曰く、今某がきたるは、元仲達の  
料ひさる。路もく、殺めんとす。孫礼計を仕損ど。味方とま  
なく討とぬ。其後、蜀の陣と伺ひ、曹真が曰く、  
比大に打破られ、其のち一人も外に出ず。張郃曰く、某が  
都と止ると、司馬仲達が、せし蜀の勢、兵糧の事を欠と  
りとも、輕くし、退く。魏の勢、たかく、孔明の

までも陣と守り。魏の勢、戦ひ負るとあらば、孔明もあ  
らざる退き去ん。と、さきける。兵家の玄妙ありと、人の試  
み人と出さず。伺はせし曹真め、信せざる。人さ  
ど、く、らせしを、果して蜀の陣に、投十面の  
旗をかり立て。人ひとりも、孔明志のぞひて、已に兩日  
と、さきける。ひひけ、曹真頭を搔く。後悔し、張郃  
よ、命とて、さきける。追志むると、卒よその甲斐も、あ  
りけり。さのと、陳倉道よの初より、魏延が一軍、王雙を  
さへて、居たりしが、孔明ひさる計と、さきける。其夜、乃  
二更に、魏延陣屋を収め、四回、王雙を、と、聞て、自  
大軍と率し、魏延の、二十里あり。追、魏延を、

問近くあつて魏延が旗も前より入らう。王雙馬を走らせ  
大音あけ魏延走るとあつた。さうして回せと。さうして  
蜀の兵ふるひあつた。我されよと逃回る。王雙馬とさう  
揉よのへて追とさう。後より手下の勢をせ来り。將軍をや  
く回りの入。魏延へ却て跡ありと。味方の陣より火をうけた  
りと告げよ。王雙うらうと顧る。火の光天と焦き扱へ  
さうされうと。慌てよ。取て回さぬ。さうしてさう  
ず。山の小りげす。兵一騎あつてうけ出。魏延さうありと。さ  
うけよ。王雙大いさうと。魏延さう斬く落と。さ  
魏の勢大將と討と。尽く乱し伏兵あつんと。魏て。さ  
さたよ。命と扶くらんと。蜘蛛の子と散らさうと。十方さう

たりける。此ゆへに魏延の三十騎の兵を引く。後陣より下り。徐  
晃と漢中へ回りける。曹真のあつて討と。さうの内よ  
さあつて。慚愧さる上。陳倉城より。郝昭が早馬となり。王  
雙が討きたる由と告げよ。哀と哭く。病を受。郭淮孫  
礼張郃ホとさうと。長安を守らせ。その身へ洛陽へ上り  
けり。

孔明三出祁山

このとれ。吳主孫権の文武の大將とあつた。蜀の孔明二度  
大軍を真くと。魏を攻め曹真と大に破り。魏の圍の將士  
尽くあつた。今已に蜀と交をむさう。上の一家の大慶  
さうしてさうと。さうしてさう。さうしてさう。さうしてさう



て魏を伐めんとせむるものなるに孫權猶豫して決せざる  
ある張昭とて出でて諫る。近き武昌の東山は鳳皇來儀し  
大江の中は黃龍出現す。今君の德唐虞に配し明文武に  
並べり。今皇帝の位に即ぐ。そのち魏を伐め人爲坐を  
志すべしと一同しく遂に四月丙寅の日を扱び武昌に南  
郊に壇を築ぎ祀す。孫權を藉して扶け登せ大禮とてく  
具て祭の礼了りけし天下に大赦を行ひ黃武八年を黃  
龍元年とめられた。父の破虜將軍孫堅と武烈皇帝と益  
母の吳氏を武烈皇后とす。兄の討逆將軍孫策と長沙桓  
王と号す。嫡子孫登を皇太子とす。孫權字子孫權格を太  
子左輔とす。張昭が子孫休を太子右輔とす。孫權格字子

孫身の長七尺折頰廣額より鬚眉寡く色をあるが清高  
より極く聰明に應對を能くす。孫權常より愛し  
ていとほきより傍に侍せしむ。孫權格が六歳のとき酒宴の  
席より孫權たるを父の孫葛瑾字子瑜が顔の長さを  
えり。二匹の驢馬を打せり。粉をりて馬の面を孫葛瑾と  
書けし。滿座腹をかくて大笑し。孫權格いとけあきなり。  
父の笑ひるを患く。ひそかにけり。願くは筆を借ぐ。二  
字をてんんとす。孫葛瑾字子瑜之驢と書けし。孫人とお驚嘆せ  
り。その聰明あると衆より入ける。今輔佐とす。太子を侍と  
す。孫權とて帝位に即ぐ。顧雍を丞相とす。陸遜を上  
軍とす。共太子を扶け。武昌城を守らし。自ら建業より

里け日六拜臣とあ魏と攻んとささむ。孫昭曰く。陛下たふさ  
 室位又登のひて。民の心いさむ。服せむ。安ん兵と動さる。うさ  
 只よろしく文と修。武と伏。學校と増設。民の心を安  
 くし。入。まが蜀の國へ使と遣。いよく好む。さして天下を  
 平分せんと約。駿と計とあ。孫權の儀美  
 もとく。いとまき圖書と修。成都と使と遣。けむ。後主  
 劉禪。群臣とあめ。六の事と議。蔣琬曰く。さか  
 濂中へ使とせ。孔明と告。人後主とあ。陳震とめ。め。め。  
 孔明。まの由と告。孔明曰く。さのさ。使と遣。く。  
 禮物と送り。即位の賀と送。いよく。唇齒の交とむ。さ。吳の  
 勢と起。陸遜と魏と交。さ。魏とあ。司馬懿と命。

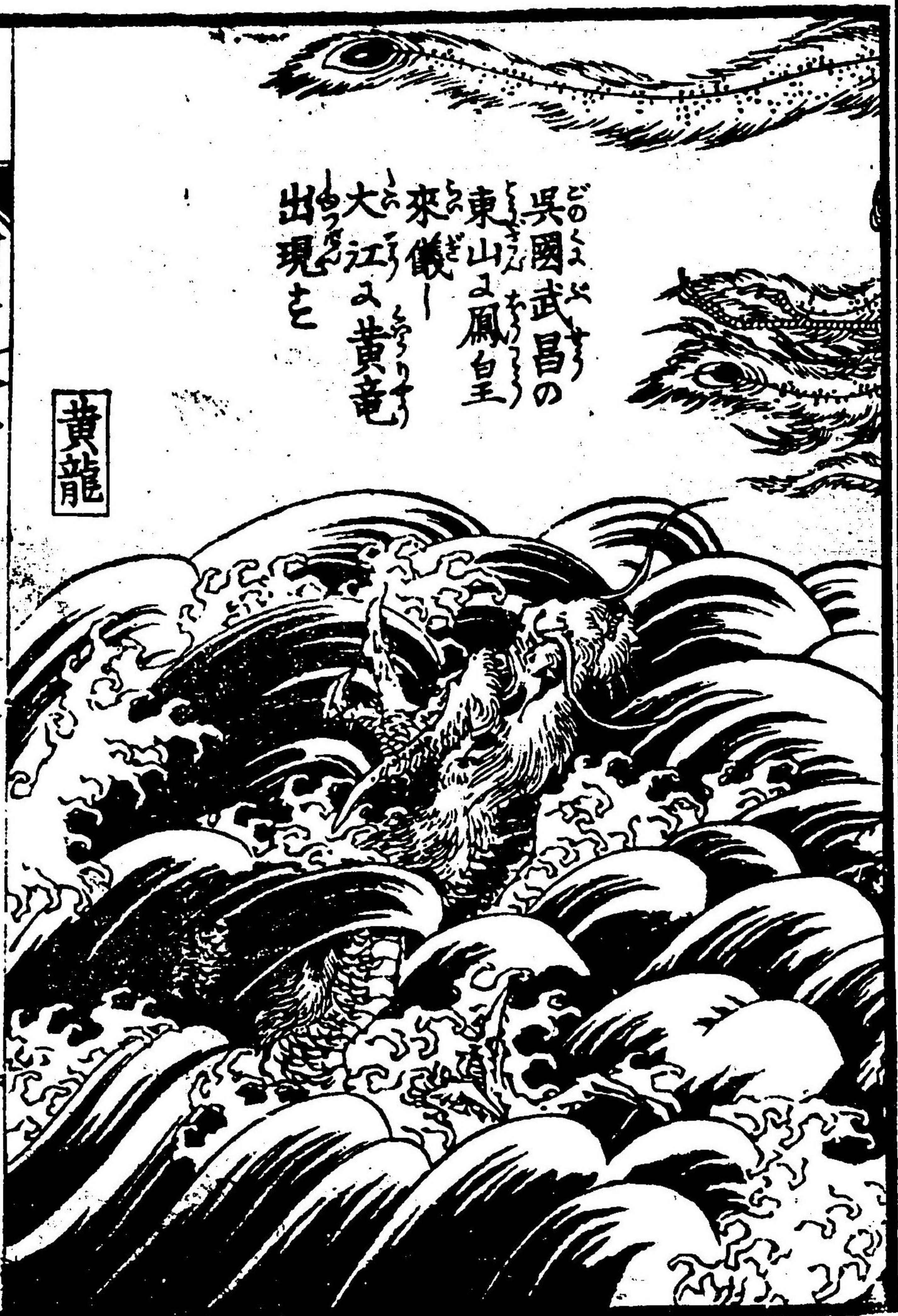
て拒。か。人司馬懿。り。吳と戦。我。又。虚。の。の。で。祁山。よ  
 り。生長。安。と。取。ん。さ。の。魏。の。勢。い。を。分。の。計。と。さ。り。と。く。直。よ  
 陳震と使と。名馬玉帯金珠寶貝とさげ。吳と行。し。陳  
 震と。建業。入。く。禮物とさげ。賀と。孫權。よ。ん。て  
 圖書と呈。け。孫權。大。喜。酒宴と設。けて。あ。の。と  
 ち。返書と修。して。送り。回。陸遜と。り。魏と攻。る。の。の。の。  
 と。議。け。陸遜。曰。く。さ。の。孔明。が。司馬懿。に。怖。る。の。の。  
 う。の。と。さ。り。已。好。む。を。上。の。從。む。ん。び。め。ん。くら。む。臣  
 急。あ。る。と。見。と。伺。ふ。虚。の。の。で。攻。り。さ。る。谷陽。を。取。ん。と  
 掌中。み。あ。り。と。く。荆。州。襄陽。の。軍。馬。と。そ。ろ。假。と。魏。と。攻。ん。と。



鳳凰

吳國武昌の  
東山に鳳皇の  
來儀あり  
大江に黄竜  
出現す

黄龍





軍勢城下までかゝりよせたりとく。城の内さへまぎけしむべし先人せし  
ど一くせしむるも早詰所の門く火をけりて。喊の音大に  
ひき上と下へと騒動しけしむべし郝昭なまふと失ふも忽ち  
も死をも蜀の軍勢四方より入内外より攻め入りて城中の  
勢尽く降参りて。片時が間もかの内より静りけり。姜維魏  
延の浩るものも夢も志もまじりて。城の辺もかゝりよせ。その体  
伺ひとるも立たる旗の一面もあらず。更も人ありともいへずけ  
しむべし二人もどろまよあやむるも忽ちとして一色の鉄炮ひま  
て。四方よりくくの旗とさしと。さしあげしむべし姜維魏延打  
ま。馬とひくへくさるもととるも。二人縮巾とひくま。鶴撃て  
又羽扇と持矢倉の上より音とあげて。汝二人あましとてさるま

かりとるとよびける。是をあたふ孔明ありしむ。二人馬より下  
て地を拜伏し。軍師まよと神計ありとひひけしむ。孔明門を  
ひらいて二人をよび入と我つ初まの城の守り。堅固なりて攻  
がたきとて患ひ人と遣りて伺へしむ。郝昭が病まを  
あしとりしり。我汝二人の三日の内を打立と命どりしむ。諸人  
の心と穩しせん為する。我却て関真張苞も一手の勢とつけ  
て。夜中も漢中を出し。我自その内まよりの居る。終夜道  
そぎ。不意に城下までかゝりよせ。敵も兵と調のふるも得ざ  
らしむ。先ひそるも城中も忍と入と音と。内より火とつけ  
させ内外より。さるもさるも破る。軍も主將あまきとさる  
あらしむるも乱る。我々のゆえにたやさく破らんとして



加る孔明諸將とありけり曰く我ら二度たのむる出  
 てその利を得む。今又さうして陣と屯とを故に魏の人  
 らも旧戦の地より我と拒む。蜀の勢より雍都の二  
 郡を取んと計く。かゝらざる兵とさしひけて此二郡と用心を。我  
 陰平武都の二郡とえらる。漢と境とほらねらる。わが  
 城を攻取らば魏の兵のまもひと分るべし。誰か行く事と  
 らん。姜維王平ひとしく出く曰く。秘にゆく人孔明とあ  
 ち姜維二万余騎を付く。武都を攻させ。王平二万余騎を  
 付く。陰平をひく。魏の左將軍張郃の長安を引退く。  
 郭淮孫礼と相護。郝昭とてびと。蜀の勢散開させぬ  
 孔明又祁山に出く。大軍と屯らると告げし。郭淮大に

おどろひて曰く。志とる人孔明もあらざる。雍都の二城と取  
 らん。張郃の長安を守りて。蜀の勢を固く。孫礼  
 二雍城とまもり。蜀とて兵と分く。打立と。洛陽へ早  
 馬ととまを。討手の勢とぞ。魏主曹叡の事を  
 急ぐ。膽と冷とある。又近臣奏し曰く。止むる満電等  
 急ぐ告ぐ。吳の孫權とて。皇帝の位と即。蜀と好むと  
 らん。陸遜とて大將と。武昌と勢とそ。攻蒐る勢とを  
 大將軍曹真の病と伏く。先づ退く。司馬懿とて。臣と愚意と  
 計る。吳の孫權が攻来るとや。あらざる。詭と

かん曹叡が曰く。その故は、司馬懿が曰く。呉の孫権本より  
 江東の八十一及て保つて。その心は不足あり。志はあつて  
 外は陸遜刺して攻取らば孫権を去る。甚だたきなりと思  
 へり。今又帝位を登る。民の不安あり。争う。軽しく大軍と  
 かまはさず。蜀の孔明は先主玄徳の思ひ。街亭の取てさ  
 ぐんとしてあつて。卒に呉の國をも滅がし。漢の天下一統の  
 功をあさん。謀とども力とども。故は、呉と好む  
 とも。兵を起し。魏を攻む。とらぬ。呉の孫権は虚の心で  
 成都を去る。とて。相使つて。交を固し。呉の勢を  
 しく。假味方と攻る。の。い。ま。あ。ひ。と。あ。さ。し。中。國。を。あ。ど。う。さ。ん  
 と。も。呉。も。又。は。は。は。魏。と。攻。ん。と。い。は。し。蜀。の。勢。の。虚。を。集

て来らん。とて。悼り。い。あ。が。ら。成。敗。と。伺。の。今。呉。の。國。より  
 攻来ると。詐の計。蜀の勢の祁山は出た。た。真実の  
 情。ち。う。と。い。ひ。け。と。魏。主。曹。叡。嘆。と。曰。く。卿。は。ま。と。大。將  
 軍の才あり。を。今。打。向。つ。孔明を破ると。即時。大。都。督  
 封。近。臣。と。曹。真。が。存。中。に。遣。し。總。兵。大。將。の。印。を。取。来  
 りて。司馬懿。と。い。ひ。け。と。ま。し。け。と。司馬懿。が。曰。く。臣。は  
 陛下の詔。と。う。く。方。死。も。あ。ん。ぞ。辞。さ。る。と。あ。ら。ん。總。兵。の  
 印。は。臣。の。行。く。精。取。の。心。と。卒。に。退。く。曹。直。が  
 府中。に。到。り。病。を。問。う。て。曰。く。呉。の。孫。権。は。い。く。帝。位。を。登  
 て。大。軍。を。起。し。陸。遜。を。大。將。と。し。攻。上。ら。ん。と。企。蜀。の。心  
 明。又。祁。山。を。出。張。し。西。魏。の。早。馬。急。を。告。る。と。雪。の。飛。し



頻りに足下をんと聞かす。曹真おどろいて曰く、病も  
伏す。曾くきつらむ。國家此のどく危し。天子をんと御  
と都督として。まの孔明を拒まざらん。司馬懿が曰く、某  
へ才薄く、智浅し。安んぞ其大任を領む。曹真も曰く、  
ら起上り。摠兵の印を授け。我の此のどく病を得たり。御  
辺の職を領すと。國家の急を救へといひけし。司馬懿  
固く辞して曰く、都督慮を發ま。某一臂の力を助けて  
とのも忠と致さる。摠兵の印は某をんと受ることを得ん  
やとて再三もよぶ。受ざらん。曹真が曰く、御辺は、  
の印を受ざると。中國をあらむ。危し。我の病  
と。天子を見へ直し。奏せんとて。又床の上

伏けし。司馬懿が曰く、天子をんと。某を召す。その職を任  
ドのどくも。某が才の薄と顧み。受む。曹真入り喜び  
さ。で。某ある上。おんぞ辞さる。とあらん。御辺を打  
立。孔明を退け。我病を瘳め。のち共蜀を攻め。天  
子として。とあら。ち印を授け。司馬懿の事を受。取。天  
子を見。右の由を奏す。十万余騎を率し。長安を發向  
し。孔明と共。智を闘ふ。

孔明計破神達

蜀の建興七年夏四月。孔明祁山をめぐりて。三谷を陣屋と作  
り。魏の勢は。いまや来ると。相待けり。司馬懿は。十万余騎を  
張郃を先鋒とし。戴陵を副將として。直し渭水の南に出



さつよあつて甲斐ちりし。今退くと議する。ある敵の  
合図とまぢりて一色の鉄炮耳根をひびきさぐ山の後の松蔭よ  
り一手の勢うぶよまき出たり。魏の軍兵魂を失る。遂にの  
びぬ。漢の丞相諸葛亮と書なる旗とまじりあげて中央より  
一輛の四輪車とまじり坐し。孔明の上は端坐して関兵張苞  
と左右よとまじり笑ひてやける。郭淮孫礼逃るとある。司  
馬懿が計をとりて争まじりあざむき得人。毎日祁山の陣よ  
軍とまじりけ。その間よ汝二人を我後へ廻さんとも。武都陰平  
へまじり攻取たり。汝亦も今馬より下り降参せよ。又兵と  
戦ひぬ。快く勝負と決せん。とまじりけ。且つ魏の勢とある  
色と先ひ。たし追ともまじり。我とたよとまじり。まじりける。あつ

忽然として喊の音天地を動し。姜維王平二手の勢を殺到  
し。列色んであまさととて攻けぬ。魏の勢討る者其數を  
あつて。適命と助るものも。甲盛とぬぎさく。赤裸とまじり走  
けり。郭淮孫礼あつり。まじり追掛らぬ。馬とりのりさく。  
木の根岩の稜よのり付く山と超て逃んとする。張苞を  
るうよのぞきとまじり。馬とよまじり。只一頃よまじり。一鞭を  
加へ追掛けぬ。乗たる馬岩よまじり。張苞のりあつる。谷  
の底よ浴たりけ。蜀の兵をせあひまじりて。まじり救ひ回けるが。  
岩稜よ打とく。張苞頭を損じけ。孔明成都よ送て病  
を養へし。郭淮孫礼の辛き命を扶り。まじり。本陣よ  
回く。右の由と告げぬ。司馬懿大よまじり。ひて曰く。全く御

辺ホが罪みあらむ孔明が智謀先あり再び兵を引く  
 鄱の二城をまのり我列の敵を破るの計あり郭淮  
 礼二手に分て出けし司馬懿とあち張郃戴陵を  
 んで曰く今孔明あらむ武都陰平の二城を攻取らば  
 民を定ちおのけん為るゆへにわたり行て事を理む  
 一。志るとん  
 祁山の本陣より自余の大將をめぐりて守らまらん汝二人  
 おのく二万余騎を率して今夜くらまぎらむ志のんを祁山の  
 後へまのり共よ力と并て攻破し我及びくら大軍をせめてそ  
 の前を攻ん志るとん敵前後を度と先ひ尽く乱る一若  
 祁山の要害を取らば孔明おのく退く一張郃戴陵計を  
 受左右に分て谷の間をわたりけるが夜の三更は兩軍いこく

出あひいざや攻んとて蜀の陣の後をめぐりて入けしを敵  
 百の車に乗と稠で細路をよまぎり通るまき様あり一  
 郃。んちどろま。是くもらむ孔明がわのとあらん早く退  
 けとして下知するあり勿忽然として鼓の音天をひき四方八面  
 とぐく火の出入蜀の伏兵一度も起さず魏の勢を直中する  
 孔明山の上より大音をまぎりける張郃戴陵も  
 言をまけ司馬懿も武都陰平を行く民と安んトさのこ  
 ころま在り料く汝二人を後より回し却て疾んで攻ん  
 ても今降人を出よ一命を助けんし罵けし張郃怒て汝  
 へ乃ち山野の匹夫何ぞ受て来て我大國の境を犯せる我今汝を  
 擒み微塵もろく棄んとまぎり馬を打て真平地上ら

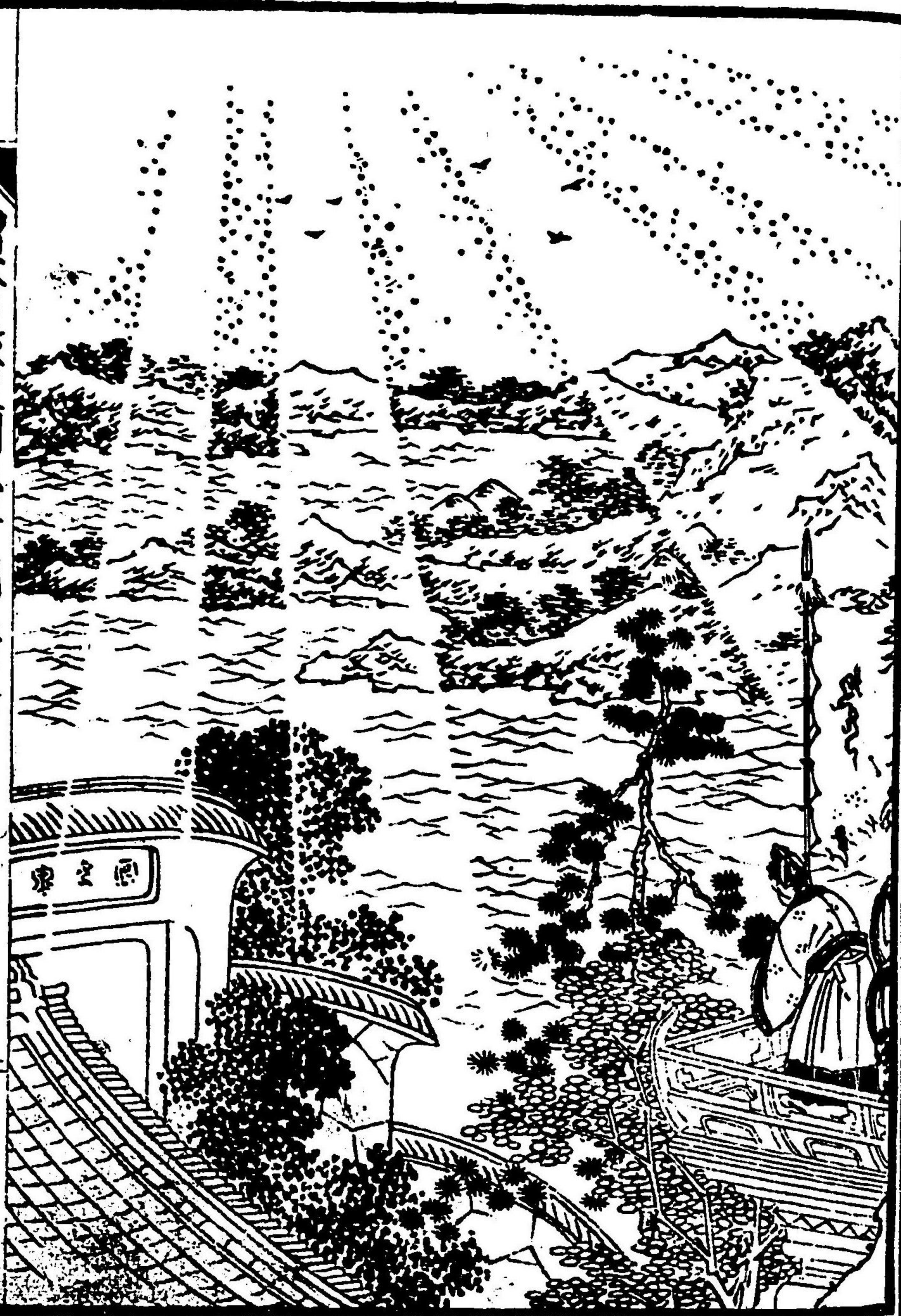
んとて山の上より大木大石を投ると雨の如く張郃是  
 より上より上る事ありしを鎗を拵めて陣の中よりけし出る二百  
 重千重よりりまきたる蜀の大勢をの鋒よりめたる事あり  
 各路を開き通しける張郃の陣と弛出たりけるが戴陵を  
 ねらふと克せりしを又取て返し勇たふるひ茂た  
 げすく大勢の中をせ回り卒に戴陵を救ひ出せしむる  
 と回りけし孔明山の上よりさす事とえて左右より曰  
 くむし張飛と張郃と大に戦ひとる事なるとして世の人  
 とおなごろま相とせ我今事とえておもひまはる其勇  
 万軍の中よりりて人のあて當る事のほし後事らむと  
 る害をなきん我事とて除く若事らむので生むる又一心

の病を添ふる事ありとして皆本陣へぞ回りけるそのとき司馬懿  
 大軍を引て正道より祁山の陣よりよせ今やややく  
 搦手の勢も近付ぬらん蜀の陣乃後より乱ると伺ひ  
 一度攻合ぐ一搦打破らんとて今やくと待所を戴  
 陵張郃と二人忽然として出来り漸愧して中ける孔  
 明を秘して我々が計を推量して伏兵をめぐりて取ひたりし  
 の味方二万余騎一人ものまらむと亡び又も二人も五体  
 とやうに痛手を負て馬とも乗せてさうく回りたりと  
 告げし司馬懿色を失ひ孔明へ真に神通を得し事  
 かくさの事とも退けして自ら馬を飛して走けし事  
 大勢も身も付を甲蓋を打弄てさうく逃回り潛

新編 後三國志 卷之十一



武昌の  
南郊の  
増をき  
つをき  
権の  
皇の  
帝の  
位  
る



武昌の南郊の増をきつをき権の皇の帝の位

廿日

武昌の南郊の増をきつをき権の皇の帝の位

廿日

ずりて回るあり。まう追ひて一騎もめまされ討取ん。司  
 馬懿しまたい曰く無用く。我量われりやう去羊きやん豊羊ほうやんあり。今年ことし麥まきス  
 熟うつくせり。孔明こうめいが兵糧へいりやう満みち足たりり。志こころくれども山路やまぢうをさへど險阻けんそ  
 ありて。常つね運送うんそうの勞あつも。我推量われせんりやうする。今孔明ことしが陣ちんにお  
 半羊はんやんの兵糧へいりやうあり。志こころくれども安んぞ。志こころくれども回くらんや  
 志こころくれども。久ひさく出いて戦いくさする。退屈たいくつして此計このまけにて我  
 と欺あやむま出いて。伏兵ふくへいありて討うちとあらん。ひる人ひとと出い  
 して向むかひむ。孔明こうめいとて三十里さんじり志こころりて住すりてやす。  
 司馬懿しまたい曰く。料しやう孔明こうめいあり。退ひく。只ただ要害やうがいと  
 志こころりて出いる。正ただあり。巴や十日じふにち志こころりて登のぼり。蜀しやくの  
 勢せいの消息せきじつあり。けし。又また人ひとと出いて。見みせしむる。蜀しやくの兵へい

志こころりて遠とほく。まうぞきたり。とや。司馬懿しまたい疑うたがひて。自ら衣え  
 せき。久ひさく。士卒しそと共とも出いて。び。志こころり。蜀しやくの兵へい又また三十里さんじり志こころり  
 ぞきたり。司馬懿しまたい本陣ほんちんを回くり。諸もろの大將たいしやうむ。曰いはく。され  
 とも。孔明こうめいが計まけあり。追おとある。志こころり。又また十  
 日じふにちあり。経へいる。人ひとをい。志こころり。蜀しやくの兵へい又また三十里さんじり退  
 いて。住すり。とや。張郃ちやうがとて出いて。曰いはく。孔明こうめい緩兵くわんへいの計まけとを  
 用もちひて。志こころり。退ひく。あま。疑うたがひを志こころり。追おひ。め  
 ぞ。今ことしの追おひ。天てんの一人ひとり乃すなは笑草しょうそうとあらん。某たれ後のちが。一  
 軍ぐんとて。討うち止とどめ。司馬懿しまたい曰いはく。孔明こうめいの計まけ。味あじ方の銳氣えいぎと。大  
 志こころり。追おひ。計まけあり。味あじ方の銳氣えいぎと。大  
 志こころり。追おひ。張郃ちやうが曰いはく。都督ととくの



さぐらう生なまのゆまである一軍いちぐんを引ひてさ道みちを追おん若わらち  
負おり回まわるが加からうらむ軍法ぐんぽうのあひからん司馬懿しまたいが曰いく御辺おのへ志し  
ひて追おんことと望のぞむまらうら兵へいを二手ふたてに分わかれ御辺おのへ二軍ふたぐんをひ  
いて真先まゝまをる力ちからを尽つくして攻戦せうせんへま自ら精兵せいへいを率そう  
て後陣おちんを続つんまの道みちをあらち首尾しゆび相應おるの計はかりある御辺おのへ  
明日あしたも争まぐ打立うちた半途はんとよりして陣ぢんを居ま一夜いちや馬まの足あしを休やすめ次の  
日あつ追付おぐ戦せんひと決けせよまらうら軍馬ぐんま疲つかれまをる力ちから  
強つよしとひひけま張ちやう郃せ大だいまらうら戴たい陵れいと共ともまをる  
る精兵せいへい三方さんぱう余騎よきを率そうしてまの半途はんとより出でく住すりければ  
司馬懿しまたいの大勢たいせきを殘のこして本陣ほんぢんを守まもらむまらうら五千ごせん余騎よき  
を扱つかんで後陣おちんまで続つまける孔明かうめいの志しをうら引退ひんたい体たいま

えせけるが路みちこひひまを伏ふし置おく魏ぎの勢せきの追お来きるを伺うかが  
せけるまの日張ちやうちやう郃せ半途はんとより出でく陣ぢんを取とり合戦あつせんへ明日あしたと定ま  
ひと告来つぎきへ孔明かうめい急いそぎ諸大將しよだいしやうをあひめて曰いく今魏ぎの勢せき追お  
きたる加からうら命いのちをまをる戦せんへ汝なんぢ亦また明日あしたの合戦あつせんへ味あじ  
方の一人敵てきの十人じゆじんにあはる程ほどのむならまらうら叶かなはず其そのときま  
らうら却かへりて伏兵ふくへいをあひめて敵てきの後のちをまらうら智勇ちゆうゆう共とも  
まをるのりたる大將だいしやうにあはるまらうら用もちひがうら志しまらうら  
魏延ぎえんが顔かほをえらる魏延ぎえん首くびを低ひくまの云いひ忽たちち王平わうへい  
まらうら又また出陣しゆぢん初はつめく敵てきを當あらうらまのぞまけまらうら孔明かうめいが  
曰いく先まあらうら如何いかせん王平わうへいが曰いく身みを弃すて國くにを救すくへ  
失あらうら首くびを敵てきらうら孔明かうめい嘆なげく曰いく王平わうへいの廉れんの忠ちゆう臣しんを

魏延が顔をとるる魏延首を低くまの云ひ忽ち王平

身とさく矢石を冒す。真の良將の才あり。志うれはる魏の  
勢二手に分きて前後より来る。まらむ我依勢て来さん  
ぞ攻ん王平よと智勇ありとども争ら身と分る前  
後の大敵のあたるゆと得ん。今一人の大將と副んとあゆむ  
る。如何せん軍中。身と棄て敵のあたる我大計を  
あさむむまき入る。ひけはむ又一人と生く曰く某秘  
がくへ行ん。諸人よとと前軍都督張翼あり。孔明が  
曰く。張郃の魏の名將。方夫不當の勇あり。汝張郃が對手のあ  
らむ。張翼が曰く。先あらん首と献らん孔明が曰く。汝已  
行んことぞ。まらむ王平とあ。二万余騎と率して  
山の後。伏匿し魏の勢を通とるを待て。討て出で跡と渡れ

○司馬懿が後陣の勢きたらむ。そのとれた二手に分きて王  
平の前なる敵と拒ぎ。張翼の後なる敵と拒げ。共志と激  
して命とらむ。戦へ。別計ととめて敵と破ら  
ん。王平。張翼計と受て出け。孔明又姜維。廖化。よ  
んで曰く。汝二人は。錦の囊とゆ。まのく。三千余騎をひ  
き。旗とせ。鼓と息。前なる山の巔。埋伏し。魏の旗も  
一王平。張翼と囲んで。十分。危きとた。至ら。此囊とひ  
ら。ま。え。よ。の。敵と破るの計あらん。三人計ととけ  
て。出け。次。吳班。吳懿。馬忠。張嶷。よ。ひ。せ。ひ。中  
へ。明日。魏の勢。攻来ら。物の程。銳氣とあ。成。血。中  
中。鋒。當り。た。汝。ホ。あ。ひ。戦。ひ。或。退。き。関。兵。が

新編 魏志 卷之四十五

討て出たるを度一度よみて回しつゝ。まきしむ戦へ。又兵  
と出して力を助くべし。四人の大将討て受てまきしむけんべ  
孔明又関兵をよんで曰く。汝は五千余騎を引て谷の間は深く  
隠れ。只山の上より。まが紅の旗を動させしむべし。まきしむ生て敵と  
討して手配させしむ定けしむ。孔明もみくら山に登り望しむら  
る。去程は魏の大將張郃戴陵は三万余騎の精兵を引てその  
まきしむの猛風のどく。勇まきしむら追うけ。喊の声もあげられた。  
蜀の勢鼓を鳴し討て出たり。張郃もよみてしむ奮威將  
軍馬忠撫戎將軍張疑左將軍吳懿安樂侯吳班四手もわら  
とて陣を張魏の勢のまきしむ進んで此もなからしむ喚りけり。  
とんぐは戦ひけしむ蜀の勢あるへ戦ひ或は志りしむ二十里の

り走りけしむ魏の勢勝のゆゑ息も継ぎ追東六月中  
旬の事あるは流る汗泉のどく。又五十里あり追蒐て暫  
人馬を息せんとし。お大息継ていつなり孔明へ山の上より。  
魏の勢のまきしむ疲れしむ焼しむをえしむ。紅の旗を揺りけしむ。関  
兵五千余騎も。谷の内より討て出たり。あまよとて蜀の大  
將馬忠張疑吳班吳懿尽く取て回しければ張郃戴陵  
又喚ひて蒐り。討り討し火を散し。追ひ返りし時移る  
まで戦ひあふ。又喊せしむと造る。二手の兵討て出魏の勢の  
後でまきしむ。餘さしと取らむ。是もあま蜀の牙門將穆  
將軍王平前軍都督張翼あり。張郃もよみて大音あ  
げ。魏軍あのとたし命を捨しむ。何の時も期しむまきしむや味

方後陣の大勢近付ぬらん。利をくしと勵して自ら勇を振ひ  
威を逞し入る。おまき叫んで十方にあたり。頑吏も変化して利  
兵堅く碎き。二時あり戦ひける。敵味方も討たたる者。敵  
とまらざる血の混ことして馬蹄もけとて。屍の墨ことして山  
。一。さ。さ。さ。とも蜀の勢へ生手みて。八方より入替く。攻けし魏の  
三方余騎を戦ひ疲まで。列色もあがりたるも。勿然として  
鼓の音天よりひびき。喊の音地を動して。一魁の軍馬討てかゝる。され  
とあち魏の大都督司馬懿あり。生手より。王平張翼がう  
ろと囲けし。張郃。戴陵又色を直して。さんぐも攻戦さ。さ  
て張翼大音あげて。中ける。諸葛丞相の計も生か。か  
も我もと救ひ。入る。總軍命を棄て戦へとして。兵と二手も

のと引分み。け。司馬懿が勢と戦へ。王平の張郃戴陵とた  
る。叫殺天を連り。互ひに利をま。と耻しめて。何をの。と  
さ。り。け。り。さ。い。ま。姜維と廖化と。二手の勢を合せ。六千余  
騎も。さ。り。山。の。頂。に。伏。く。居。た。り。と。遙。く。合。戦。の。体。と。見  
る。魏の勢も大。蜀の勢も疲。と。入。け。し。と。あ。り。ま。あ  
が。居。て。味。方。の。弱。仕。出。し。た。る。も。由。り。と。さ。や。今。の。錦。の。囊。と。  
ひ。ら。き。と。ん。と。て。二。人。ひ。そ。う。よ。是。と。と。と。司。馬。懿。兵。と。引。て  
王平張翼と。圍。ま。す。汝。二。人。の。二。手。も。分。と。直。司。馬。懿。が。渭  
水。の。本。陣。も。攻。め。れ。司。馬。懿。も。と。志。ら。ぶ。長。安。の。破。と。ん。と。  
始。と。あ。り。て。と。ま。ま。走。る。と。その。塵。も。乘。て。さ。と。と。伐。た。と。の。陣  
う。を。ひ。得。ま。と。も。十。分。も。利。と。得。と。と。書。た。り。二。人。大。に。か。さ。る。と。

丞相の神計果して此のごとくして。二手に分きて涪水の陣  
よおしよさる。司馬懿の元より孔明が計と始し。略こゝたへ  
人とのあつて跡の様子とまきほくろひひるが。前なる軍強して  
入り乱れて戦ふ。追々早馬きたり。蜀の勢二手に分れて  
本陣を攻ると告げよ。司馬懿色と失ひ。さよばのを孔明  
が計よ落さよ。たり我ホあるのよ長追して。本陣を敵も取  
れ。如何して生残りよ。あらんぞ。今く回るとのよ程よあ  
る。さよ。馬と飛して走けよ。魏の勢魂を失ひ。膽と冷  
甲益と加ふ。走り奔く。我先よと推回と。さよ。よ。氣と得て蜀  
の大勢息と。勢と追うけよ。張郃戴陵も。さよ。少計  
れ。さよ。走りける。関興王平ホ手さげく追て十分

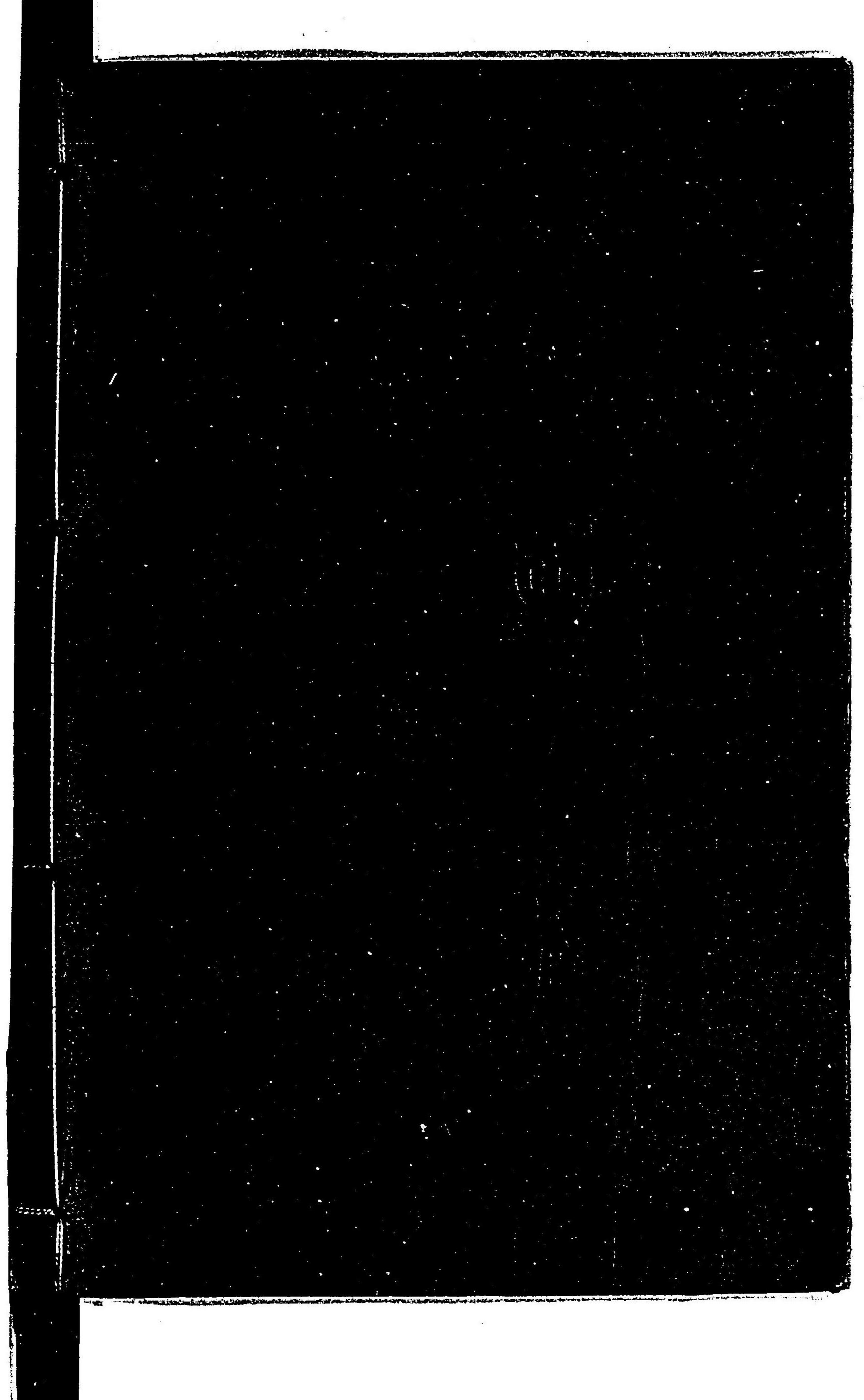
打勝けよ。軍のさよ。長追おせよ。さよ。さよ。さよ。  
へ。孔明よ見ゆ。司馬懿の本陣。逃入敗軍とあゆみ。さよ  
ける。諸將も兵法とさよ。只血気の勇と持ん。我命  
と用ひ。却る。さよ。敗と取ま。今よりのち。安よ動も  
のあら。さよ。軍法と正さんと怒りけよ。諸將も蓋  
始して退生と。さよ。日の合戦。魏の大將の計と。さよ。其  
救ま。さよ。多く。史上記と。暇る。孔明ハ十分。戦ひ。の  
て。敵の奔たる馬物の具と取あゆ。諸軍と賞して。再び  
さよ。まんと。さよ。成都より早馬きたり。虎翼將軍張苞  
破傷風卒よ治ぎ。相果たりと告ぐ。孔明是を聞て。さよ  
放て。大よ哭き。血を吐て昏絶と。諸人扶け起し。けよ。警あり

て獲生とくせいの道より病やまひを得とく床とこの上うへの伏ふけとて諸將しよしょうとて  
感激くんげきして危あやふきとていふものなる。其後十日ありて経つ孔  
明こうめいひそる。董とう厥けつ樊はん建けんホとよんでやける。我われおもひせむ。  
病やまひと受うて昏あふ沈しんして軍事ぐんじと理ふる。とある。汝みづかホとらる。後  
人ひとも志こころらしむる。とある。凡すべ司馬懿しまたいのききく。かゝる。及および急いそぎ  
攻せ来きらる。とて暫しばく。漢中かんちゆうの志こころのどき。病やまひと兼あひ。後のち再またび  
出いんとおもひ。とて。諸大將しよたいしょうと觸ふとま。今夜こんやの内うちに引ひと  
とこ。一夜いちやの中ちゆうに尽つく。漢中かんちゆうへぞ入いりける。後五日のちとて。司馬  
懿いもめて。その事こととま。大おほの嘆なげとてやける。孔明こうめいまこと。神出  
鬼没きびつの計はかりあり。我われ及およぶ。とある。とて。諸將しよしょうと分わけて。要害やうがい  
守まもらせ。自ら洛陽らくやうへ上ありける。孔明こうめいとら。志こころのう。漢中かんちゆうの中ちゆうで退

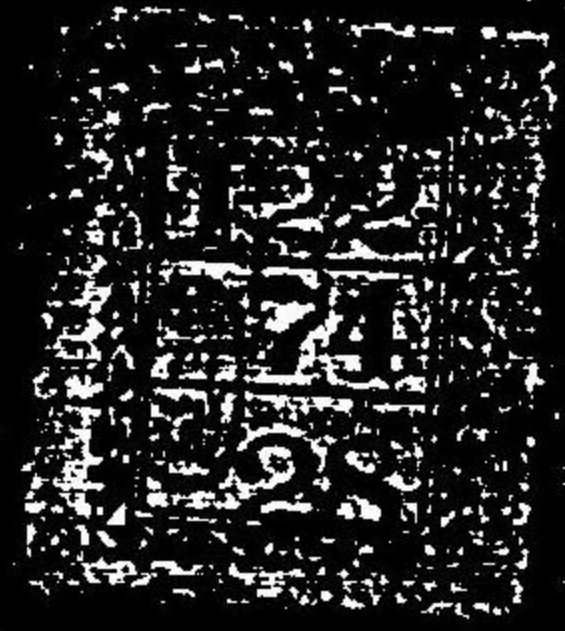
ま。とて。成都せんとうへ回かへり。けと。文武ぶんぶの百官ひやくくわん尽つく。土つちむ。久ひさく送おくりて  
丞相せうしょう存ぞんを扶たすけ。入いり。天子てんしの命めいを來きりて。病やまひと問と御ご医いを命めいと  
て。治ち療りょうと。尽つく。と。い。け。と。追おう。快たい驗げんと。得とたりける。

繪本通俗三國志七編卷之四終

122  
74  
28







繪本通俗三國志

七編

一

增補通俗三國志

122  
74  
28

東 京 圖 書 館			
七 五 冊	七 八 號	二 六 架	和 書 門 小 說 類